

SD-700シリーズ 取扱説明書

株式会社エス・アール作成
平成15年6月1日

< 初版 >

本装置を使用する前に、必ず本取扱説明書を読み、内容を十分にご理解した上で使用してください。

まえがき

取扱説明書について

(1) この度は株式会社 エス・アール SD-700シリーズをご購入していただき、誠にありがとうございました。

(2) 本説明書の内容について疑問が起きたり、ご不明な点がある場合は当社までご連絡をお願いします。

判らないまま使用したり、誤った操作を行うと事故につながります。

(3) 本取扱説明書の記載内容以外の目的で使用された場合に、発生した事故及び本装置を当社の許可なく改造して発生した事故については、当社は一切の責任を負いません。

(4) 本取扱説明書の無断複写、無断翻訳を禁止します。

当社の連絡先を示します。

地域の連絡先を予告なく変更する場合があります。承知おきください。

株式会社 エス・アール

本社 〒487-0025 愛知県春日井市出川町5丁目26番地の3

Tel (0568) 53-1061

注意

- ・光源を目に当てたり見つめたりしないで下さい。
- ・幼児の手の届かない場所をご利用下さい。
- ・バーコードの読み取り以外で使用しないで下さい。
- ・弊社の許可なく改造、分解、修理を行わないで下さい。
- ・医療機器、原子力設備や機器など人命に関わる設備や機器として使用しないで下さい。
- ・取扱説明書及び補足資料に記載のない環境で使用しないで下さい。

安全に正しくご使用いただくために

- ・本機を分解、改造しないでください。
- ・ケーブル類は、高圧線や動力源からできるだけ離してください。ノイズにより、故障や誤動作の原因になります。
- ・ケーブルを持って持ち運ばないで下さい。
- ・投受光部に水、油、ほこりなどを付着させないでください。
- ・本機は精密機器ですので、落下させた場合、破損する恐れがあります。持ち運びの際や設置の際はご注意ください。
- ・この取扱説明書を印字する場合はレーザープリンタを推奨いたします。

インデックス

(1) 取扱説明内容

インデックス	1
インストラクション	2
設定手順	3
用語の意味	4
出力データフォーマット	5
初期設定	6
弊社出荷時設定	7
よくある質問	8・9・10・11
保守	12
キーボードインターフェイス	13・14・15・16
RS-232C	17・18・19
特殊設定	20
システムコントロール	21・22
スキャニングモード	23・24

(2) バーコードの設定内容

UPC-A	25・26
UPC-E	27・28
EAN-13	29・30
EAN-8	31・32
Code-39	33・34・35
Interleaved 2 of 5	36・37
Industrial 2 of 5	38・39
Matrix 2 of 5	40・41
China Post 2 of 5	42・43
Codabar/NW7	44・45
Code-128	46・47
Code-93	48・49
Code-11	50・51
MSI/Plessey	52・53
UK/Plessey	54・55
IATA	56・57
Telepen	58・59

(3) その他の設定内容

出力コントロール	60・61・62・63
特殊機能	64・65
ケーブルタイプ	66
アスキーコード表	67
補助機能	68
数値設定用コード	69
出力インターフェイス	70

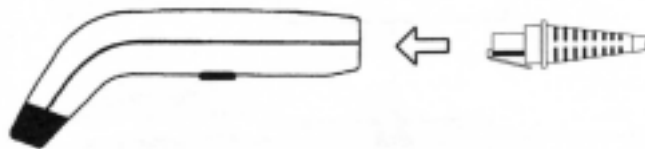
インストール

例: キーボードウェッジタイプのスキャナー

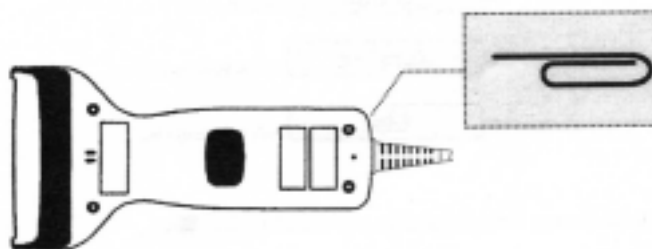
1) 端末からキーボードコネクタを外して、スキャナーのYケーブルをつなぎ、その後端末のキーボードポートにつないで、端末の電源を入れます。



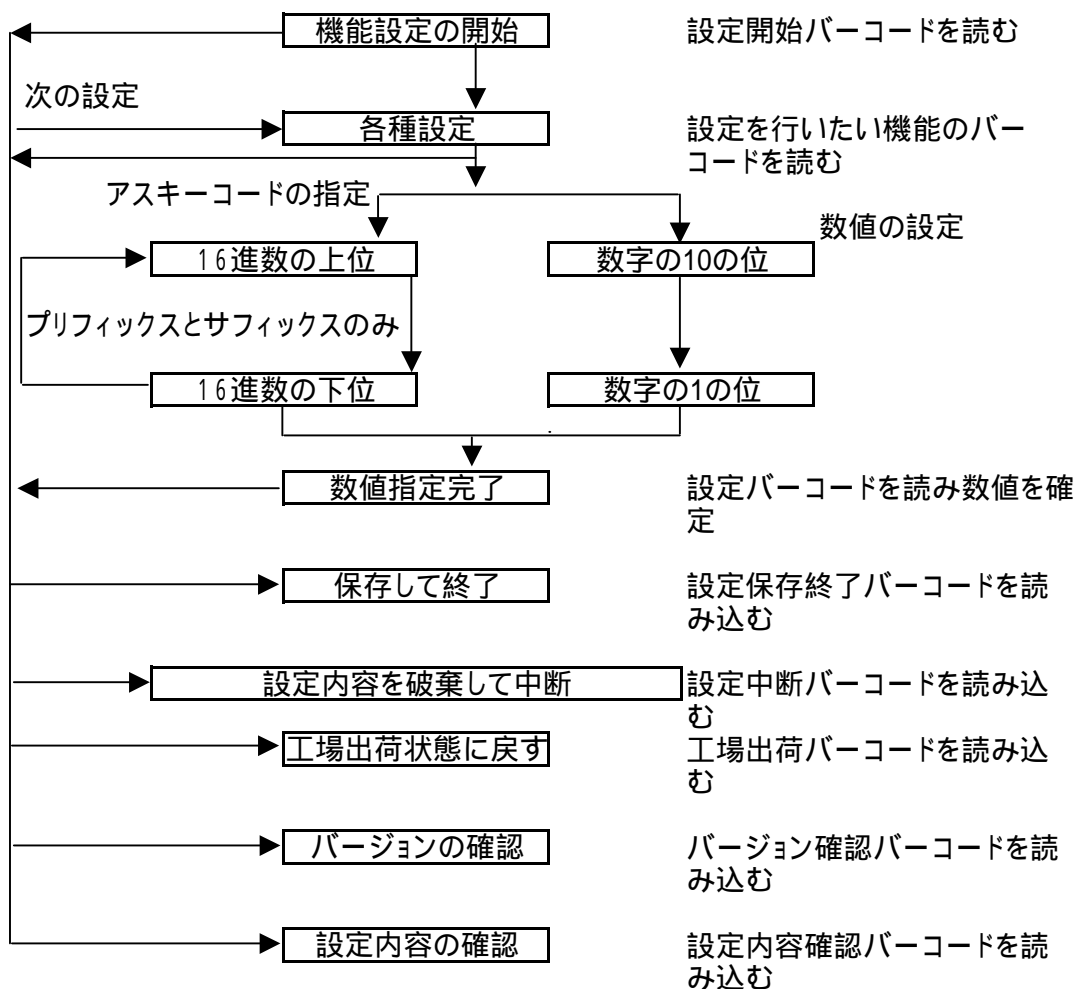
2) バーコードリーダーは電話用ジャック型のコネクタによってつなげてあります。



3) 電話用ジャック型コネクタはスキャナーから簡単に取り外せます。スキャナーの後ろにある小さな穴にピンか針を差し込んでください。



設定手順



設定を行っている最中にわからなくなってしまった場合には、設定内容を工場出荷状態に戻して、最初から行う事をお勧めいたします。工場出荷状態は < > で示されています。

用語の意味

設定項目名...各機能の設定項目の名前

設定開始バーコード...設定を開始する際に1番最初に読み込むバーコード

機能設定バーコード...各設定機能のためのバーコード

設定機能名...各設定の機能の名前

工場出荷値...工場出荷状態の設定の表記は< >

設定説明...各種設定内容の説明

設定範囲...設定する際の決められた範囲

設定中断終了バーコード

設定保存終了バーコード...設定を終了する際に1番最後に読み込むバーコード

The diagram shows a vertical menu of settings for a scanner. At the top, it says 'Interboard 2 of 5' and '設定開始' (Start Setting). Below this are several menu items, each with a description and a barcode. The items are: '読み込み' (Load), '工場出荷値' (Factory Default), '工場出荷状態' (Factory Default Status), '工場出荷値' (Factory Default), and '工場出荷状態' (Factory Default Status). At the bottom, there are two more barcodes labeled '設定中断終了' (End Setting Interrupt) and '設定保存終了' (End Setting Save).

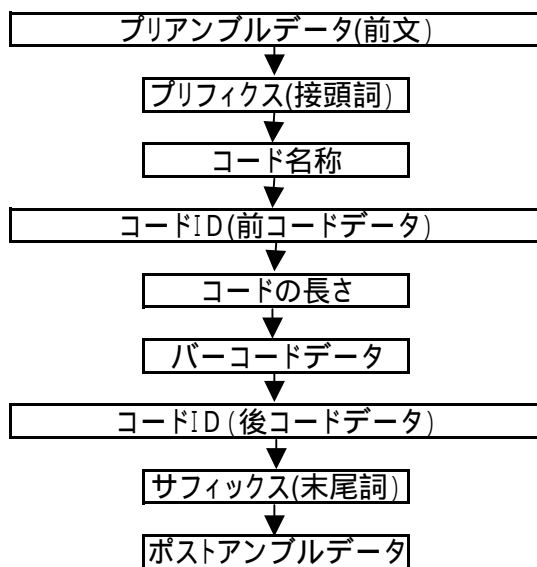
設定の仕方

スキャナーの全機能設定は本取扱説明書のバーコードを読み込むことにて行います。
以下の設定の仕方を参考にして必要なページをA4にて印字した上、読んで設定願います。

- 設定したい項目のページを開きます。
- 設定開始のバーコードを読み込みます。
- 設定したい機能の設定用バーコードを読み込みます。
- 設定保存終了のバーコードを読み込みます。

出力データフォーマット

読み込んだバーコードの前後に必要なデータを付加させることができます。



初期設定

DEFAULTのバーコードを読み込み時の内容です。

バーコードの設定内容

コード種類	読込有効	最小限の長さ	最大限の長さ	コードID
UPC-A		-	-	A
UPC-E		-	-	E
EAN 13(JAN 13)		-	-	F
EAN 8(JAN 8)		-	-	FF
Code 39		0	0	M
Interleaved 2 of 5		6	0	I
Industrial 2 of 5		4	0	H
Martrix 2 of 5		4	0	G
China post 2 of 5		11	11	J
Codabar/NW7		4	0	N
Code 128		0	0	K
Code 93		4	0	L
Code 11		4	0	O
MSI/Plessey		4	0	P
UK/Plessey		4	0	R
IATA		4	0	Q
Telepen		4	0	S

その他の設定内容

機種内容	設定値	設定内容
ビープ音量	5	Level 5
ビープトーン	28	2.8 KHz
ビープ音長	10	100 mSec
タイマー待機時間	20	20 Sec
点灯時間	20	200 mSec
消灯時間	20	200 mSec
読込み間隔	50	500 mSec
重複検査時間	1	Onec
文字間隔遅延	0	遅延無
データ間遅延	0	遅延無
応答遅延	30	3 Sec
マージンタイマー	10	100 mSec

弊社出荷時の設定

出荷時の設定内容

弊社のバーコードリーダは、下記の設定をして出荷しています。
出荷時の設定に戻されたい場合は下記のバーコードを上から順番に読み込んでください。

A) デフォルトの設定をします。

1. 英文マニュアル54ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
2. 「DEFAULT」のバーコードを読み込みます。
3. 55ページの最下段「END」のバーコードを読み込みます。

1



2



3



B) 日本語キーボード(106)の設定をします。

1. 6ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
2. 同ページの右段の下から3番目「KT-106」のバーコードを読み込みます。
3. 7ページの最下段「END」のバーコードを読み込みます。

1



2



3



C) バーコードリーダのボタンを押している間のみ、バーコードを読み込む設定にします。

1. 14ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
2. 同ページの上から2番目「Trigger Mode 1」のバーコードを読み込みます。
3. 15ページの最下段「END」のバーコードを読み込みます。3以上です。

1



2



3



注意

上記の設定は出荷時の設定に戻されたいときに行ってください。
何らかの事情で調子が悪くなったとき等、上記の設定をお薦めいたします。

よくある質問

Interleaved 2 of 5 のバーコードを読み込む設定

バーコードの種類で Interleaved 2 of 5 のバーコードを読み込みたいのですが？

1. 英文マニュアル24ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
 2. 同ページの最上段のRead 右段「Enable」のバーコードを読み込みます。
 3. 25ページの1番下「END」のバーコードを読み込みます。
- 以上です。



バーコードの後に文字を付加させる設定

バーコードを読み込む際にTabキーを付加させたいのですが？

1. 英文マニュアル38ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
 2. 同ページの真中よりやや上のPostamble Transmission右段の「Enable」のバーコードを読み込みます。
 3. すぐ下の左段「Data0<CR>」のバーコードを読み込みます。
 4. 55ページの最上段「0」のバーコードを読み込みます。
 5. 同ページの右段 上から2番目の「9」のバーコードを読み込みます。
 6. 同ページの下から2番目の「SET」のバーコードを読み込みます。
 7. 同ページの1番下の「END」のバーコードを読み込みます。
- 以上です。



バーコードリーダーのISBNの設定方法

ISBNコードを読み込みたいのですが？




1. 英文マニュアル18ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。
 2. 同ページの真中の辺りのISBN/ISSN Transmission右段の「Enable」のバーコードを読み込みます。
 3. 19ページの1番下の「END」のバーコードを読み込みます。
- 以上です。



よくある質問








起動音をなくす設定

バーコードリーダの起動音をなくす設定を知りたいのですが？
(電源投入時に、内部の自己診断が正常に終了した場合に、
起動音を鳴らす指定をなくすには？)

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 英文マニュアル12ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。 | 1 |  |
| 2. 同ページの最上段のPower-On Music 左段「Disable」のバーコードを読み込みます。 | 2 |  |
| 3. 13ページの1番下「END」のバーコードを読み込みます。
以上です。 | 3 |  |







バーコードの頭に文字を付加させる設定

バーコードを読み込む際に頭に「I」を付加させたいのですが？

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 英文マニュアル38ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。 | 1 |  |
| 2. 同ページの1番上のPreamble Transmission 右段「Enable」のバーコードを読み込みます。 | 2 |  |
| 3. すぐ下の左段「Data0<Null>」のバーコードを読み込みます。 | 3 |  |
| 4. 55ページの左段の上から5番目「4」のバーコードを読み込みます。 | 4 |  |
| 5. 同ページの右段の上から2番目「9」のバーコードを読み込みます。 | 5 |  |
| 6. 同ページの下から2番目「SET」のバーコードを読み込みます。 | 6 |  |
| 7. 同ページの1番下「END」のバーコードを読み込みます。
以上です。 | 7 |  |

バーコードを切り詰めて読み込む設定

NW7の12桁を11桁で表示させたいのですが？

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 英文マニュアル28ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。 | 1 |  |
| 2. 29ページの最上段 Truncate Digits 右段「Ending Digits」のバーコードを読み込みます。 | 2 |  |
| 3. 55ページの最上段「0」のバーコードを読み込みます。 | 3 |  |
| 4. すぐ下の段「1」のバーコードを読み込みます。 | 4 |  |
| 5. 同ページの下から2番目「SET」のバーコードを読み込みます。 | 5 |  |
| 6. 同ページの1番下「END」のバーコードを読み込みます。
以上です。 | 6 |  |

よくある質問

バーコードの後にコマンドを付加させる設定

バーコードを読み込む際に「Alt+P」を付加させたいのですが？

1



1. 英文マニュアル38ページの最下段「START」のバーコードを読み込みます。



2. 39ページの上から2項目目 Suffix Transmission右段の「Enable」のバーコードを読み込みます。



3. 斜め左下の「Clear Suffix Data」のバーコードを読み込みます。



4. すぐ下の「Data <NULL>」のバーコードを読み込みます。

5



5. 55ページの左段 上から2番目の「1」のバーコードを読み込みます。

6



6. 55ページの右段 上から8番目「F」のバーコードを読み込みます。

7



7. 同ページの左段 上から6番目の「5」のバーコードを読み込みます。

8



8. 同ページの左段 最上段の「0」のバーコードを読み込みます。

9. 同ページの下から2番目の「SET」のバーコードを読み込みます。

9



10. 同ページの1番下の「END」のバーコードを読み込みます。以上です。

10



配列が変わる時

Q. Windows 2000のパソコンで、PS/2やUSB接続すると記号の配列が変わってしまいますがどうしてでしょうか？

A. マイクロソフト側の問題です。インストールするとキーボードの設定が標準では101英語キーボードになっているからです。

その為、バーコードリーダを接続すると本来の英語キーボードの設定になり、記号文字の配列が変わってしまう場合があります。

正しい日本語キーボードの設定に変更してください。

例 109日本語キーボードにする。

(接続しているキーボードに合わせて、設定をなおしてください)

よくある質問

バーコードリーダのインターフェースの選び方

Q. バーコードリーダのインターフェースの選び方について？

A. 下記の3種類の接続方法があります。

USB
PS/2
RS232C

USBについて

現在、最も人気がある接続方法です。

Windows2000、XP、MeなどのPCをお使いのユーザーがご使用になれます。

Windows98の場合は、オリジナルのWindows98のCD-ROMが必要となります。

Macにも対応できますが、使用できない機械もありますので貸出制度もありますので、ご確認ください。

PS/2

DOS/V機でPS/2のポートがあって、キーボード接続できる機械であれば、ご使用できます。但し、一部のPS/2のコネクタを持っていても、キーボード接続できない機械(NEC MATE系)がありますので注意が必要です。)

PCには、必ずキーボードないしエミュレーターが必要となります。

RS232C

接続する為には、RS232Cのプロトコル(通信ボーレートなど)についての知識が必要となります。

また、接続する為に特別なソフトが必要となります。

PS/2について

WindowsNTでは、キーボードエミュレーターは必要ありません。

但し、キーボードが接続されていない場合は、ハードウェアドライバでPS/2が組み込まれている事を確認してください。

NECのMATEについて

OSでWindows2000の場合は、USB仕様をお勧めします。

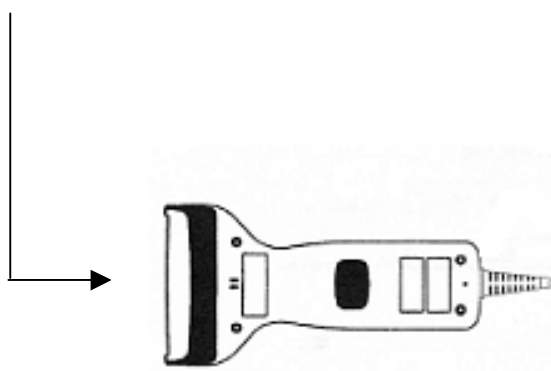
OSがNT仕様の場合は、PS/2にて接続してください。

キーボードがUSBで接続している場合に、PS/2のドライバーを追加してください。

基本的にWindowsNTの場合、USBをサポートしておりませんので使用できません。

保守

バーコードリーダーが読みにくくなった場合は、エタノールを含ませた布でレンズの部分を拭き、よごれやほこりを取り除いてください。



Keyboard Wedge (キーボードインターフェイス)

START (設定開始)



Keyboard Speed (キーボードスピード)

スキャナーがパソコンにバーコードデータを通知する速度を指定します。通常の設定は、高速または超高速が性能的に良いです。バーコードデータの表示が遅く、取りこぼしているような場合には、中速または低速に変更して試してください。

Low (低速)



Medium (中速)



< High (高速) >



Turbo (超高速)



Numeric Key Position (数字キーポジション)

この機能はIBM PC/AT、PC/2、IBM 5576シリーズパソコンが互換機でしか使用できません。選択されたキーパッドケースは、数値出力をキーパッド出力にすることが可能です。規定の設定はアルファベットキーです。

< Alphabetic-key >
(アルファベットキー)



Keypad (キーパッド)



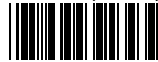
Function Key Emulation (ファンクションキーエミュレーション)

この機能はIBM PC/AT、PS/2、IBM 5576シリーズパソコンが互換機でしか使用できません。機能が作動しているとき、01Hから1FHの間のASC のコード値が送信されたデータのファンクションキーに変換されて、RS-232Cの通信プロトコルに使用できます。変換処理はプリアンブル、ポストアンブル、プレフィクス、サフィックスコードプログラムを含みます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Keyboard Simulation (キーボードシミュレーション)

ホストコンピュータの電源がついている間、全てのパソコンは装置(キーボードインターフェイスを含む)を自己チェックしています。その機能が作動しているとき、電源がついている間、ホストコンピュータがキーボードインストールをチェックします。キーボードインストールせずに機能を作動させることをおすすめします。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Caps Lock (キャプスロック)

読み込んだバーコードの全ての文字について、指定された大文字・小文字に変換してパソコンに通知する機能指定です。アップパーケース(大文字)が選択されてキャプスロックオンになっている時、あるいはローワーケース(小文字)が選択されてキャプスロックがオフになっているとき、出力スタイルはキャラクターケースと合致します。

< Uppercase (大文字) >



Lowercase (小文字)



Auto (自動)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Keyboard Wedge (キーボードインターフェイス)

START (設定開始)



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Keyboard Type (キーボードタイプ)

スキャナーは、工場出荷時にて日本の環境に適する設定を行い出荷しております。お客様の使用環境(マシン種類)等によりましては、動作しない場合もあると思われます。このような場合に、本設定を行い正しく動作するかお試しください。

< IBM AT,PS/2 >



Macintosh ADB.



NEC 9801



IBM 5500



IBM 5576



Spare1 (予備1)



Spare3 (予備3)



IBM XT



IBM PS/2 25,30



IBM PS/2 55



KT-106



Spare0 (予備0)



Spare2 (予備2)





Keyboard Language (キーボード言語)

スキャナーは、工場出荷時にて英語キーボードが接続されている設定となっております。その他の国の設定も可能です。日本で使用される場合は英語設定をおすすめいたします。

< USA[US] (英語) >



Danish[DK] (デンマーク)



Germany[GR] (ドイツ)



Portuguese[PO] (ポルトガル)



Swedish[SV] (スウェーデン)



UK[UK] (英国英語)



Spare0 (予備0)



Belgium[BE] (ベルギー)



France[FR] (フランス)



Italian[IT] (イタリア)



Spanish[SP] (スペイン)



Switzerland[SF] (スイス)



Latin American[LA] (ラテンアメリカ)



Spare1 (予備1)



Specific Adjustments (特殊設定)

Inter-Character Delay Timer (文字間隔遅延)

これは文字出力の間の時間の遅れです。キャラクタ間ディレイタイマーは0から99msまであり、様々なホストコンピュータや端末の応答時間を合わせるために使われます。調節して、最小の遅れで正常に動くようにしてください。数値の単位は1msです。

Range:00₁₀-99₁₀,Unit:1ms
(範囲:00₁₀-99₁₀,単位:1ms)



Transmit Delay Timer (データ間遅延)

バーコードデータの出力間の遅れです。この機能は短いバーコードデータの出力やマルチフィールドスキャンのときに使われます。数値の単位は10msです。

Range:00₁₀-99₁₀,Unit:10ms
(範囲:00₁₀-99₁₀,単位:10ms)



例) バーコードデータが“ABCD”で、文字間隔遅延を2msとして、転送遅延10msとした場合

1. 設定開始
2. 文字間隔遅延 0 2 設定(文字間隔遅延に2ms を設定補足:02*1ms(単位)=2ms)
3. データ間遅延 0 1 設定(データ間遅延に10ms を設定補足:01*10ms(単位)=10ms)
4. 設定保存終了

ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Baud Rate (通信速度)

スキャナーは、工場出荷時は9600BPSにて設定されております。

38400 BPS



< 9600 BPS >



2400 BPS



600 BPS



19200 BPS



4800 BPS



1200 BPS



300 BPS



Data Parity (パリティ長)

スキャナーは、工場出荷時はなしにて設定されております。

< None (なし) >



Odd (奇数)



Mark (マーク)



Even (偶数)



Space (スペース)



Data Bits (データ長)

スキャナーは、工場出荷時は8ビットにて設定されております。

7Bits (7ビット)



< 8Bits (8ビット) >



Stop Bits (ストップビット)

スキャナーは、工場出荷時は1ビットにて設定されております。

< 1Bit (1ビット) >



2Bits (2ビット)





Handshaking (ハンドシェイキング)

プロトコルは、スキャナーとシリアルホストコンピュータ間のデータフローを制御します。

< Disable (無効) >



CTS/RTS



Data Ready (データレディ)



STX/ETX



Spare0 (予備0)



RTS/CTS



Scanner Ready (スキャナーレディ)



XON/XOFF



CTS Trigger (CTSトリガー)



Spare1 (予備1)



Disable (無効)

通信方法は、リード線(TXD)か受信データ(RXD)で、どんなハードウェア(RTS/CTS)でもソフトウェア(XON/XOFFかACK/NAK)ハンドシェイキングでもかまいません。

RTS/CTS (CTS/RTS)

この機能が選択されているときは、通常データ通信の前に送信要求信号(RTS)と送信可信号(CTS)が送られます。例えば、スキャナーがバーコードデータをホストコンピュータに送ろうとしたとき、まずスキャナーは送信要求信号(RTS)を出し、ホストコンピュータからの送信可信号(CTS)を待ち、その後、通常データ通信が行われます。もし有効時間以内(応答遅延)にホストコンピュータからの送信可信号(CTS)がないと、スキャナーは5回ピープ音を出します。

Scanner Ready (スキャナーレディ)

スキャナーの電源がついているとき、スキャナーは送信要求信号(RTS)を出し、送信可信号(CTS)を受け取るとデータを送信します。

Data Ready (データレディ)

スキャナーはデコードが成功したことを示すために送信要求信号(RTS)を出し、送信可信号(CTS)を受け取ると、データを送信します。



RS-232C (RS-232Cインターフェイス)

STX/ETX

テキストの初め(STX)とテキストの終わり(ETX)はASC コードで、それぞれ値は02Hと03Hで、通常データ送信を圧縮できます。

XON/XOFF

受信デバイスが送信デバイスにCtrl-SとCtrl-QでASC XON/OFFコードを送ったときに、制御されたデータフローがデバイス間で行われます。つまり、受信デバイスがデータを受け取れないとき、XOFFコードを出し、ホストコンピュータに一時的にデータ送信を停止するよう知らせます。

ACK/NAK

ACK/NAKプロトコルは、スキャナーをプログラミングしているシリアルホストコンピュータにフィードバックを行います。ACK/NAKプロトコルには2つ大切な機能があります。一つ目は、コマンドが受け入れられて、実行されているという肯定応答をホストコンピュータに出すことで、二つ目はホストコンピュータがスキャナーが処理できる速さ以上でコマンドを出さないようにすることです。スキャナーが正しいフォーマットのコマンドを受け取るとACK(06H)の肯定応答が出され、正しくないフォーマットのコマンドを受け取ると、NAK(15H)コードが出されます。

CTS Triger (CTSトリガー)

これは外部デバイスがスキャンングをコントロールできるようにするものです。CTSトリガーは外部トリガーシグナルをCTSインプット(外部トリガー作動中)に作動させることにより制御されます。作動中は、このシグナルはスキャナーのトリガーが押されたようにスキャンングを始めさせます。デコードする場合は、別のスキャンが始まる前に最低でも50ミリ秒間動作を停止しなくてはなりません。

Specific Adjustments (特殊設定)

START (設定開始)



Inter-Character Timer (文字間隔遅延)

これは文字出力の間の時間の遅れです。キャラクタ間ディレイタイマーは0から99msまであり、様々なホストコンピュータや端末の応答時間を合わせるために使われます。調節して、最小の遅れで正常に動くようにしてください。数値の単位は1msです。

Range:00₁₀-99₁₀,Unit:1ms
(範囲:00₁₀-99₁₀,単位:1ms)



Transmit Delay Timer (データ間遅延)

バーコードデータの出力間の遅れです。この機能は短いバーコードデータの出力やマルチフィールドスキャンのときに使われます。数値の単位は10msです。

Range:00₁₀-99₁₀,Unit:10ms
(範囲:00₁₀-99₁₀,単位:10ms)



Response Delay Timer (応答遅延)

タイムアウトはシリアル通信スキャナーがホストコンピュータからのハンドシェーキングか、ACKかNAKを待つようにあらかじめ設定された時間の遅れです。タイムアウトすると、スキャナーは5回警告のピープ音を出します。この機能はホストコンピュータの方が同じシグナルに反応するのに長い時間かかるアプリケーションのときに特に有効です。

Range:00₁₀-99₁₀,Unit:100ms
(範囲:00₁₀-99₁₀,単位:100ms)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



System Control (システムコントロール)

START (設定開始)



Power-On Music (起動音)	
電源投入時に、内部の自己診断が正常に終了した場合に、起動音を鳴らす指定です。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Power-On Auto Trigger (起動スイッチ)	
電源投入時にトリガースイッチを押さなくとも、自動的にスキャンニング状態になります。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Good-Read LED (グッドリードLED)	
バーコードが正しく読み込めた場合に本体上部のLEDを点燈させる指定です。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Good-Read Beep (ブザー音)	
バーコードが正しく読み込めた場合にブザーを鳴らす指定です。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Power Saving (パワーセーブ)	
有効を設定することにより、パワーセーブが可能となります。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Force Case (文字変換)	
読み込んだバーコードの全ての文字について、指定された大文字・小文字に変換してパソコンに通知する機能指定です。アップパーケース(大文字)が選択されてキャップスロックオンになっている時、あるいはローワーケース(小文字)が選択されてキャップスロックがオフになっているとき、出力スタイルはキャラクターケースと合致します。	< Disable (無効) > Uppercase (大文字) Lowercase (小文字)

ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



System Control (システムコントロール)

START (設定開始)



Field Control (フィールドコントロール)

フィールドコントロールでマルチフィールドが選択されていると、スキャナーはたくさんのバーコードデータを同時に同じスキニングラインで読み出せます。読み出しコードの方向は違うタイプのシンボルコードデータでも左から右です。

< One Field (1個) >



Multi Field (複数個)



Double Confirm (ダブルコンファーム)

この機能はバーコードの種類と読み取りの質によって決まります。作動が選択されていると、スキャナーはバーコードデータを有効にするために読み取りを何回も要求します。確認回数数は15ページのダブルコンファーム回数機能で設定できます。確認回数を多くするほどコードの誤読が少なくなります。読み出しスピードは落ちますが、回数を多く設定すると良いです。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Inter-Character Gap (キャラクタ間ギャップ)

CODE39やコーダバー、MSIなどのディスクリートコードはキャラクタ間ギャップが特徴で、機械的な付番方式での印刷に向いています。キャラクタ間ギャップはラチェット機構を可能にしています。既定の設定はナローです。

< Narrow (狭い) >



Wide (広い)



Spare0 (予備0)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Ratio Adjustive (比率調整)

全てのバーコードは黒いバーと白いスペースより成り立ちます。もしもバーコードが読めない時はバーコード幅の比率が異なることが原因かもしれません。通常は、1:2~1:3.5の間にて作成されています。この設定はお客様で特に設定変更はありません。

[IOA]Ratio0 (比率0)



[IOB]Ratio1 (比率1)



[IOC]Ratio2 (比率2)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Scanning Mode (読込状態)

START (設定開始)



Trigger Mode0 (トリガーモード0)	
<p>スキャナーの底についているトリガーボタンを押すと、スキャン可能です。読み取りが成功したときか、タイムアウト時間が経過してもコードがデコードされなければ、スキャナーの光源が消えます。</p>	<p>Trigger On & Good-Read Off (読込時消燈)</p>
Trigger Mode1 (トリガーモード1)	
<p>トリガーボタンは連絡スイッチのように働きます。スキャンを始めるにはトリガーボタンを押し、やめるにはボタンを解除してください。</p>	<p>Trigger On/Release Off (押下時)</p>
Trigger Mode2 (トリガーモード2)	
<p>トリガーボタンはトグルスイッチのように働きます。スキャンを始める、あるいはやめるときはトリガーボタンを押してください。(トグルモード)</p>	<p>Trigger On/Off (トグルスイッチ)</p>
Trigger Mode3 (トリガーモード3)	
<p>スキャナーの底についているトリガーボタンを押すと、スキャン可能です。タイムアウト時間が経過してもコードがデコードされなければ、スキャナーはスキャンをやめます。(レーザーモード)</p>	<p>< Trigger On/Time-Out Off > (タイムアウト消燈)</p>
Trigger Mode4 (トリガーモード4)	
<p>スキャナーの底についているトリガーボタンを押すと、スキャン可能です。タイムアウト時間が経過してもコードがデコードされなければ、スキャナーが光源を光らせます。このモードだとバッテリー容量を節約でき、光源の動作寿命を伸ばすことが出来ます。読み取りが成功したときか、トリガーボタンが押されるとスキャナーが動きます。点灯時間を設定してください。</p>	<p>Trigger On/Time-Out Flash (タイムアウト点滅)</p>
Trigger Mode5 (トリガーモード5)	
<p>タイムアウト時間やトリガーボタンに関係なく、スキャナーが稼動しつづけます。</p>	<p>Trigger On/Continue On (常時読込)</p>
Trigger Mode6 (トリガーモード6)	
<p>スキャナーは連続的に読み取りを続け、ダブルコンファームなしでラベル読み取りができます。スキャナーの性能、読み取り速度と過敏性をテストできます。</p>	<p>Test Only (テスト用)</p>
<p>ABORT (設定中断終了)</p>	<p>END (設定保存終了)</p>

Scanning Mode (読込状態)

START (設定開始)



Spare0 (予備0)



Spare1 (予備1)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Read (読み込み)

このコードは有効にて設定しております。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Add-On (アドオン)

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。必要に応じて設定してください。

例) バーコードデータ + 追加文字(2or5文字)

< Disable (無効) >



Add-On2 (追加2文字のみ)



Add-On5 (追加5文字のみ)



Add-On2+5 (追加2or5文字)



Add-On Lock (アドオンロック)

アドオンバーコードは補足的なコードで、たいてい2個か5個のWPCの補足デジットを示します。この機能は、アドオンロックが作動中だと、アドオンバーコードと一緒にWPCを読み込むときに、アドオンコードの出力をさせます。だから、アドオンなしではWPCバーコードを読めません。アドオンコードを読み出さなくてはならないときは、アドオンを作動させておいたほうが良いです。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Leading Zeros (ゼロサプレス)

この機能が動いているとき、バーコードのデータキャラクタの先頭の0は切り捨てられます。この機能はWPC読み取りのときのみ使用されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

このコードでは、チェックデジットが標準で含まれています。チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、無効を設定してください。

Disable (無効)



< Enable (有効) >





Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>
Truncate Digits (トランケートデジット)	
<p>バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。</p>	<p>Leading Digits (リーディングデジット) Range:00₁₀-15₁₀ (範囲:00₁₀-15₁₀)</p> <p>Ending Digits (エンディングデジット)</p>
Code ID (コードID)	
<p>コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。</p>	<p>ID [Range:00₁₆-FF₁₆] (ID [範囲:00₁₆-FF₁₆]) Set ASC Code (アスキーコード)</p>





Read (読み込み)

このコードは有効にて設定しております。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Add-On (アドオン)

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。必要に応じて設定してください。

例) バーコードデータ + 追加文字(2or5文字)

< Disable (無効) >



Add-On2 (追加2文字のみ)



Add-On5 (追加5文字のみ)



Add-On2+5 (追加2or5文字)



Add-On Lock (アドオンロック)

アドオンバーコードは補足的なコードで、たいてい2個か5個のWPCの補足デジットを示します。この機能は、アドオンロックが作動中だと、アドオンバーコードと一緒にWPCを読み込むときに、アドオンコードの出力をさせます。だから、アドオンなしではWPCバーコードを読めません。アドオンコードを読み出さなくてはならないときは、アドオンを作動させておいたほうが良いです。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Expansion (拡張)

機能の拡張は、UPC-EかEAN-8コードの読み取りのときだけ使用されます。機能が作動しているとき、先頭が0の13桁にまで拡張できます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Leading Zeros (ゼロサプレス)

この機能が動いているとき、バーコードのデータキャラクタの先頭の0は切り捨てられます。この機能はWPC読み取りのときのみ使用されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)





Checksum Transmission (チェックサム転送)	
<p>このコードでは、チェックデジットが標準で含まれています。チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、無効を設定してください。</p>	<p>Disable (無効)</p> <p>< Enable (有効) ></p>
Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>
Truncate Digits (トランケートデジット)	
<p>バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。</p>	<p>Leading Digits (リーディングデジット) Range:00₁₀-15₁₀ (範囲:00₁₀-15₁₀)</p> <p>Ending Digits (エンディングデジット)</p>
Code ID (コードID)	
<p>コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。</p>	<p>ID [Range:00₁₆-FF₁₆] (ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])</p> <p>Set ASC Code (アスキーコード)</p> <p>ID1 (ID1)</p>





Read (読み込み)	
このコードは有効にて設定しております。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Add-On (アドオン)	
追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。 必要に応じて設定してください。 例) バーコードデータ + 追加文字(2or5文字)	< Disable (無効) > Add-On2 (追加2文字のみ) Add-On5 (追加5文字のみ) Add-On2+5 (追加2or5文字)
Add-On Lock (アドオンロック)	
アドオンバーコードは補足的なコードで、たいてい2個か5個のWPCの補足デジットを示します。この機能は、アドオンロックが作動中だと、アドオンバーコードと一緒にWPCを読み込むときに、アドオンコードの出力をさせます。だから、アドオンなしではWPCバーコードを読めません。アドオンコードを読み出さなくてはならないときは、アドオンを作動させておいたほうが良いです。	< Disable (無効) > Enable (有効)
ISBN/ISSN Transmission (ISBN/ISSN転換)	
ISBN(国際標準図書番号)とISSN(国際標準逐次刊行物番号)は、2種類のバーコードブックランドラベルです。ISBNは978がついた10桁の数字で、ISSNはEAN-13のコード体系の977がついた8桁の数字です。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Truncate Leading Zeros (ゼロサプレス)	
この機能が動いているとき、バーコードのデータキャラクタの先頭の0は切り捨てられます。この機能はWPC読み取りのときのみ使用されます。	< Disable (無効) > Enable (有効)





Checksum Transmission (チェックサム転送)

このコードでは、チェックデジットが標準で含まれています。チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、無効を設定してください。このチェックデジットは、モジュラス10ウエイト3にて算出されています。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:0010-1510
(範囲:0010-1510)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:0016-FF16]
(ID [範囲:0016-FF16])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは有効にて設定しております。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Add-On (アドオン)

追加文字設定は、WPCコードを読み込んだ後に、続く追加文字(add-on code)の2文字または、5文字を補う設定です。必要に応じて設定してください。

例) バーコードデータ + 追加文字(2or5文字)

< Disable (無効) >



Add-On2 (追加2文字のみ)



Add-On5 (追加5文字のみ)



Add-On2+5 (追加2or5文字)



Add-On Lock (アドオンロック)

アドオンバーコードは補足的なコードで、たいてい2個か5個のWPCの補足デジットを示します。この機能は、アドオンロックが作動中だと、アドオンバーコードと一緒にWPCを読み込むときに、アドオンコードの出力をさせます。だから、アドオンなしではWPCバーコードを読めません。アドオンコードを読み出さなくてはならないときは、アドオンを作動させておいたほうが良いです。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Expansion (拡張)

機能の拡張は、UPC-EかEAN-8コードの読み取りのときだけ使用されます。機能が作動しているとき、先頭が0の13桁にまで拡張できます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Leading Zeros (ゼロサプレス)

この機能が動いているとき、バーコードのデータキャラクタの先頭の0は切り捨てられます。この機能はWPC読み取りのときのみ使用されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Checksum Transmission (チェックサム転送)

このコードでは、チェックデジットが標準で含まれています。チェックデジットはバーコードの最終の1文字ですが、これを転送したくない場合には、無効を設定してください。このチェックデジットは、モジュラス10ウエイト3にて算出されています。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID0 [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID0 [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code
(アスキーコード)



ID1





Read (読み込み)	
このコードは有効にて設定しております。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Format (フォーマット)	
フルASC CODE-39は、CODE-39強化版で、全てのASCコードを表す128キャラクタのデータです。	< Standard (標準) > Full ASC (フルアスキー)
Code-32[Italian Pharmac.] Translation (Code-32の転送)	
CODE-32はCODE-39の別バージョンで、0から9までの桁のバーコードデータです。初めのAは任意のキャラクタで、送信してもしなくてもいいものです。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Code-32 Leading 'A' Transmission (Code-32のAの転送)	
初めのAは任意のキャラクタで、送信してもしなくてもいいものです。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Append Function (付加機能)	
CODE-39、CODE-128、CODE-93などの種類には付加機能があり、いくつかのシンボルがつながって、一つのデータエントリのように扱われます。この機能が作動しているときスキャナーは、埋め込まれた付加コード(CODE-39、CODE-93の初めのスペース、CODE-128のFNC2キャラクタ)のついたシンボルを送りません。付加コードのついた他のシンボルが再び読まれたとき、それらのコードはコードID、プレフィックスなしで送信されます。付加コードなしのシンボルか、CODE-39、CODE-93、CODE-128以外のデータがデコードされると、データはコードIDとプレフィックスなしで送信されますが、ポストアンブルとサフィックスコードはつきません。	< Disable (無効) > Enable (有効)





Start/End Transmission (スタート/ストップコード転送)

CODE-39のスタートコードとストップコードである、“*”転送を指定します。有効を設定した場合には、バーコードデータは前後に“*”が付加され、はさまれた形でパソコンに転送されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE39ではモジュラス43を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。モジュラス43は、CODE39で利用している43種類の文字にそれぞれ番号を割り当て算出された数字です。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)

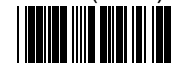


Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:0010-1510
(範囲:0010-1510)



Ending Digits
(エンディングデジット)





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:0010-4810
(範囲:0010-4810)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:0016-FF16]
(ID [範囲:0016-FF16])

Set ASC Code
(アスキーコード)



Interleaved 2 of 5

START (設定開始)



Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Format (フォーマット)

一般にInterleaved 2 of 5 は、1文字のバーコードで2個の数字を表しています。文字数が奇数個の場合には、奇数コード(ODD S-code)として読み込む必要がありますので、奇数コードを設定してください。

< Disable (無効) >



Odd Scode (奇数コード)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Interleaved 2 of 5 ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。このコードは性質上誤読が多いので、チェックサムをつけての運用をお勧めします。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)	
このコードは無効にて設定しております。	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Checksum Verification (チェックサム検査)	
<p>チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Industrial 2 of 5 ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。</p>	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Checksum Transmission (チェックサム転送)	
<p>チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。</p>	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Truncate Digits (トランケートデジット)	
<p>バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。</p>	<p>Leading Digits (リーディングデジット) Range:0010-1510 (範囲 :0010-1510)</p> <p>Ending Digits (エンディングデジット)</p>





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:0010-4810
(範囲:0010-4810)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:0016-FF16]
(ID [範囲:0016-FF16])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Matrix 2 of 5 ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])
Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、China Post 2 of 5 ではモジュラス10ウエイト3を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは有効にて設定しております。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Start/End Symbol Type (スタート・ストップ種類)

Codabar は、4種類のスタートコードとストップコードが用意されています。お使いになられるバーコードの種類に合わせて1つを選択してください。

< ABCD/ABCD >



abcd/abcd



ABCD/TN*E



abcd/tn*t



Start/End Transmission (スタート/ストップコード転送)

Codabar のスタート・ストップコードをパソコンに転送する指定です。有効を設定した場合には、バーコードデータの前後にスタート・ストップコードが付加されパソコンに転送されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、Codabar ではモジュラス16を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)





Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)Range:00₁₀-15₁₀(範囲:00₁₀-15₁₀)Ending Digits
(エンディングデジット)

Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)Range:00₁₀-48₁₀(範囲:00₁₀-48₁₀)Max.Code Length
(最大限コード長)

Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code

(アスキーコード)





Read (読み込み)	
このコードは有効にて設定しております。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Format (フォーマット)	
CODE128 は、バーコードデータをFNC1 にて開始することにて、UCC/EAN-128 の形式にてデータを転送することができます。この場合に、はじめのFNC1“]C1”が転送され、“<GS>(7F16)”までが一まとめとなります。	< Standard (標準) > UCC/EAN-128
Append Function (付加機能)	
CODE-39、CODE-128、CODE-93などの種類には付加機能があり、いくつかのシンボルがつながって、一つのデータエントリのように扱われます。この機能が作動しているときスキャナーは、埋め込まれた付加コード(CODE-39、CODE-93の初めのスペース、CODE-128のFNC2キャラクタ)のついたシンボルを送信しません。付加コードのついた他のシンボルが再び読まれたとき、それらのコードはコードID、プレフィックス、プレフィックスなしで送信されます。付加コードなしのシンボルが、CODE-39、CODE-93、CODE-128以外のデータがデコードされると、データはコードIDとプレフィックスなしで送信されますが、ポストアンブルとサフィックスコードはつきません。	< Disable (無効) > Enable (有効)
Checksum Verification (チェックサム検査)	
チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE128 ではモジュラス103ウエイト1を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。	Disable (無効) < Enable (有効) >
Checksum Transmission (チェックサム転送)	
チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。	< Disable (無効) > Enable (有効)





Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>
Truncate Digits (トランケートデジット)	
<p>バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。</p>	<p>Leading Digits (リーディングデジット) Range:00₁₀-15₁₀ (範囲:00₁₀-15₁₀)</p> <p>Ending Digits (エンディングデジット)</p>
Code Length (コード長)	
<p>1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。</p>	<p>Min.Code Length (最小限コード長) Range:00₁₀-48₁₀ (範囲:00₁₀-48₁₀)</p> <p>Max.Code Length (最大限コード長)</p>
Code ID (コードID)	
<p>コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。</p>	<p>ID [Range:00₁₆-FF₁₆] (ID [範囲:00₁₆-FF₁₆]) Set ASC Code (アスキーコード)</p>





Read (読み込み)	
このコードは無効にて設定しております。	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Append Function (付加機能)	
<p>CODE-39、CODE-128、CODE-93などの種類には付加機能があり、いくつかのシンボルがつながって、一つのデータエントリのように扱われます。この機能が作動しているときスキャナーは、埋め込まれた付加コード(CODE-39、CODE-93の初めのスペース、CODE-128のFNC2キャラクタ)のついたシンボルを送信しません。付加コードのついた他のシンボルが再び読まれたとき、それらのコードはコードID、プリアンブル、プレフィックスなしで送信されます。付加コードなしのシンボルが、CODE-39、CODE-93、CODE-128以外のデータがデコードされると、データはコードIDとプレフィックスなしで送信されますが、ポストアンブルとサフィックスコードはつきません。</p>	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Checksum Verification (チェックサム検査)	
<p>チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE93ではモジュラス47を利用しています。一般的には、2文字を付加させているので、工場出荷では2文字が設定されています。必要により、変更を行ってください。</p>	<p>Disable (無効)</p> <p>One (1文字)</p> <p>< Two (2文字) ></p>

Checksum Transmission (チェックサム転送)	
<p>チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。</p>	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>





Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])
Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)	
このコードは無効にて設定しております。	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Checksum Verification (チェックサム検査)	
<p>チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、CODE11 ではモジュラス11を利用しています。一般的には、2文字を付加させていますので、工場出荷では2文字が設定されています。必要により、変更を行ってください。</p>	<p>Disable (無効)</p> <p>One (1文字)</p> <p>< Two (2文字) ></p>

Checksum Transmission (チェックサム転送)	
<p>チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。</p>	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Spare (予備)	
	<p>< Disable (無効) ></p> <p>Enable (有効)</p>

Truncate Digits (トランケートデジット)	
<p>バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。</p>	<p>Leading Digits (リーディングデジット) Range:0010-1510 (範囲:0010-1510)</p> <p>Ending Digits (エンディングデジット)</p>





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、MSI/Plessey ではモジュラス10または11を利用しています。一般的には、1文字を付加させていますので、工場出荷ではモジュラス10 が設定されています。必要により、変更を行ってください。

Disable (無効)



< Mod 10 (モジュラス10) >



Mod 10/10 (モジュラス10/10)



Mod 11/10 (モジュラス11/10)



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

Disable (無効)

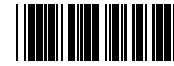


< Enable (有効) >



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:0010-4810
(範囲:0010-4810)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:0016-FF16]
(ID [範囲:0016-FF16])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字です。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1~15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)





Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])
Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)	
このコードは無効にて設定しております。	< Disable (無効) >  Enable (有効) 
Checksum Verification (チェックサム検査)	
チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字で、IATA ではモジユス7を利用しています。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。	< Disable (無効) >  Enable (有効) 
Checksum Transmission (チェックサム転送)	
チェックサムを利用した場合には、最終の1文字または2文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。	< Disable (無効) >  Enable (有効) 
Spare0 (予備0)	
	< Disable (無効) >  Enable (有効) 
Spare1 (予備1)	
	< Disable (無効) >  Enable (有効) 





Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ビープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)

Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)

Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])

Set ASC Code
(アスキーコード)





Read (読み込み)

このコードは無効にて設定しております。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Format (フォーマット)

Telepen は数字のみとフルアスキー (英数字 + 記号) の利用が可能です。数字のみHWA また、オートスイッチを指定することにて、キャラクタを混合させることも可能です。この場合、“(7F16)”コードによって、英数字とフルアスキーHWAキーを切り替えます。

< Numeric Mode (数字のみ) >



ASC Mode (フルアスキー)



Auto Mode (オートモード)



Checksum Verification (チェックサム検査)

チェックサムとは読み込んだバーコードデータから算出した結果と最終の文字を比較する文字です。チェックサムを検査する場合には有効を設定してください。エラーとなった場合には、そのコードは転送されません。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Checksum Transmission (チェックサム転送)

チェックサムを利用した場合には、最終の文字がチェックサムとなります。この文字をパソコンに転送したい場合には、有効を設定してください。この設定は、チェックサムの検査を有効にした状態で設定願います。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Spare (予備)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Telepen

START (設定開始)



Truncate Digits (トランケートデジット)

バーコードの前後の指定文字数(1～15文字)を割愛。設定値が0でなければ、バーコードデータキャラクタの初めか終わりの数値は切り捨てられます。トランケート数値がバーコードデータの桁かトランケートリーディングの数値よりも大きいか、トランケートリーディングの数値がエンディングデジットと重複すると、ピープ音が鳴るだけで読み取りがされません。トランケートの最大値は15です。

Leading Digits
(リーディングデジット)
Range:00₁₀-15₁₀
(範囲:00₁₀-15₁₀)



Ending Digits
(エンディングデジット)



Code Length (コード長)

1から48までの最小限と最大限の長さは、データエントリーを制限するように設定できます。長さは、送られてきたバーコードデータの実際の長さで決められています。この制限を越える長さのラベルは、拒否されます。最小限の長さの設定が最大限の長さの設定を超えないようにしてください。全てのラベルの読み取りがされません。特に、固定長バーコードをデコードさせるために、最大限と最小限の読み取りの長さに同じ数値を設定できます。WPC(UPC、EAN、JAN)のような固定長ラベルのバーコードでは、数値の設定は影響がありません。

Min.Code Length
(最小限コード長)
Range:00₁₀-48₁₀
(範囲:00₁₀-48₁₀)



Max.Code Length
(最大限コード長)



Code ID (コードID)

コードIDは読み取り成功時にデコードされ始めるシンボルを表すキャラクタです。このコード機能が働いていると、コードIDは送られたデータの初めか終わりにつけられます。コードIDを2つ持っているUPC-EやEAN-8のようなバーコードラベルもあります。

ID [Range:00₁₆-FF₁₆]
(ID [範囲:00₁₆-FF₁₆])
Set ASC Code
(アスキーコード)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Output Control (出力コントロール)

START (設定開始)



Preamble Transmission (プリアンブル転送)

読み込んだバーコードデータのヘッダーとして、文字列を先頭に付加させたい場合は、プリアンブルを有効に設定してください。プリアンブルデータは、2つのコードが設定可能です。データ0とデータ1を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Data0 'NULL' (データ0 'NULL')

Range:0016-FF16
(範囲:0016-F F16)

Set ASC Code
(アスキーコード)



Data1 'NULL' (データ1 'NULL')

Range:0016-FF16
(範囲:0016-F F16)

Set ASC Code
(アスキーコード)



Postamble Transmission (ポスタンブル転送)

読み込んだバーコードデータのフッターとして、文字列を末尾に付加させたい場合は、ポスタンブルを有効に設定してください。ご利用のソフトによっては、読み込まれたバーコードデータの末尾にキャリッジリターン以外を付加させたい場合があります。その場合には、データ0とデータ1を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの末尾に自動的に付加されます。

Disable (無効)



< Enable (有効) >



Data0 'CR' (データ0 'CR')

Range:0016-FF16
(範囲:0016-F F16)

Set ASC Code
(アスキーコード)



Data1 'LF' (データ1 'LF')

Range:0016-FF16
(範囲:0016-F F16)

Set ASC Code
(アスキーコード)



例) バーコードデータの末尾に"@+"と付加させる場合(ポスタンブルにて)

1. 設定開始
2. 有効
3. データ0 4 0 設定 データ1 2 B 設定
4. 設定保存終了

ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Output Control (出力コントロール)

START (設定開始)



Add-On Preamble Transmission (アドオンプリアンブル転送)

読み込んだバーコードデータのヘッダーとして、文字列を先頭に付加させたい場合は、プリアンブルを有効に設定してください。プリアンブルデータは、2つのコードが設定可能です。データ0とデータ1を読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Data0 'CR' (データ0 'CR')

Range:00₁₆-FF₁₆

(範囲:00₁₆-FF₁₆)

Set ASC Code

(アスキーコード)



Data1 'LF' (データ1 'LF')

Range:00₁₆-FF₁₆

(範囲:00₁₆-FF₁₆)

Set ASC Code

(アスキーコード)



Spare0 (予備0)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Spare1 (予備1)

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Output Control (出力コントロール)

START (設定開始)



Prefix Transmission (プリフィックス転送)

読み込んだバーコードデータのヘッダーとして、15文字以内の文字列を先頭に付加させたい場合は、プリフィックスを有効に設定してください。設定された文字列は、プリアンブルデータとバーコードデータの間に入ります。プリフィックスデータを設定する場合には、データを読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて15文字以内にて繰り返し設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Clear Prefix Data (全消去)



Data 'NULL' (データ 'NULL')

15Bytes, Range: 00₁₆ - FF₁₆

(15バイト, 範囲: 00₁₆ - FF₁₆)

Set ASC Code

(アスキーコード)



Suffix Transmission (サフィックス転送)

読み込んだバーコードデータのフッターとして、15文字以内の文字列を末尾に付加させたい場合には、サフィックスを有効に設定してください。設定された文字列は、ポストアンブルデータとバーコードデータの間に入ります。サフィックスデータを設定する場合には、データを読み込み、送信を行いたいコードをアスキーコード(16進数)にて15文字以内にて繰り返し設定します。設定されたデータは、読み込まれたバーコードデータの先頭に自動的に付加されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Clear Suffix Data (全消去)



Data 'NULL' (データ 'NULL')

15Bytes, Range: 00₁₆ - FF₁₆

(15バイト, 範囲: 00₁₆ - FF₁₆)

Set ASC Code

(アスキーコード)



例) バーコードデータの末尾に“ABCD”と付加させる場合(サフィックスにて)

1. 設定開始
2. 有効
3. データ 4 1 4 2 4 3 4 4 設定
4. 設定保存終了

Code ID Transmission (コードID転送)

読み込んだバーコードの種類を転送したい場合には有効に設定してください。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Output Control (出力コントロール)

START (設定開始)



Code ID Position (コードIDポジション)

上記コードIDの転送する位置を指定してください。バーコード前が指定された場合には、読み込まれたバーコードデータの前に追加され、バーコード後を指定した場合には読み込まれたバーコードの後に追加されます。

< Before Code (コード前) >



After Code (コード後)



Code Name Transmission (コードネーム転送)

読み込んだバーコードの長さを転送したい場合には有効に設定してください。バーコードの長さは、2桁の数字にて転送されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



Code Length Transmission (コード長転送)

読み込んだバーコードの種類を名称として転送したい場合には有効に設定してください。通常はコードIDで済むと思われませんが、視覚的に把握したい場合や、未定義の種類を読み込んでしまった場合に利用すると便利です。コードの種類は、バーコードデータの前へ“(”と“)”にはさまれ付加されます。

< Disable (無効) >



Enable (有効)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Specific Adjustment (特殊機能)

START (設定開始)



Beep Loudness (ビープ音量)

Range:01₁₀-10₁₀(範囲:01₁₀-10₁₀),Unit:Level (単位:Level)



Beep Tone (ビープトーン)

Range:10₁₀-50₁₀(範囲:10₁₀-50₁₀),
Unit:100Hz(単位:100Hz)



Beep Duration (ビープ音長)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀),Unit:10ms(単位:10ms)



Stand-By Timer (待機時間)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀),Unit:1s(単位:1s)



Active Timer (点灯時間)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀),Unit:10ms(単位:10ms)



Sleep Timer (消灯時間)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀),Unit:10ms(単位:10ms)



Good-Read Delay Timer (読込間隔)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀),Unit:10ms(単位:10ms)



Double Confirm Times (重複検査時間)

Range:01₁₀-10₁₀(範囲:01₁₀-10₁₀)



Global Min.Code Length (バーコード最小文字数)

Range:01₁₀-99₁₀(範囲:01₁₀-99₁₀)



Global Max.Code Length (バーコード最大文字数)

Range:04₁₀-48₁₀(範囲:04₁₀-48₁₀)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Specific Adjustment (特殊機能)

START (設定開始)



Spare0 (予備0)



Spare1 (予備1)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



ケーブルタイプ

IBM PC, XT, AT & PS/2	
ファンクション	6p Mini Din(M)
クロック(Host)	1
データ(Host)	5
クロック(KBD.)	-
データ(KBD.)	-
Gnd	3
GND Shield	3
VCC(+5V)	4

RS-232C	
ファンクション	9p Dsub(F)
TxD	2
RxD	3
RTS	8
CTS	7
Shorted	4, 6
Gnd	5
GND Shield	5
VCC(+5V)	9

ASC Code Table (アスキーコード表)

START (設定開始)



L \ H	0	1	0	1	2	3	4	5	6	7
0	Null		NUL	DLE	SP	0	@	P	`	p
1	Up	F1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	Down	F2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	Left	F3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	Right	F4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	PgUp	F5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	PgDn	F6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	Home	F7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	End	F8	BS	CAN	(8	H	X	h	x
9	Tab	F9	HT	EM)	9	I	Y	i	y
A		F10	LF	SUM	*	:	J	Z	j	z
B	Ctrl-B	Esc	VT	ESC	+	;	K	[k	{
C	Ctrl-C		FF	FS	,	<	L	\	l	
D	Enter		CR	GS	-	=	M]	m	}
E			SO	RS	.	>	N	^	n	~
F			SI	US	/	?	O	_	o	DEL

アスキーコード表の見方

H(High)は列です。

L(Low)は行です。

例) STXのコード<02H>は'0'の列と'2'の行で参照されます。

Alt+(他のキーと合わせてショートカットを使う)の場合はUSのコード<1FH>です。
'1'の列と'F'の行で参照されます。

初期状態に戻す [DEFAULT]



設定中断 [ABORT]



バージョン確認 [VERSION]



設定内容を表示 [LIST]



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Support (補助機能)

START (設定開始)



DEFAULT (初期状態に戻す)

全ての設定を < > で記述した初期値に戻します。



ABORT (設定中断)

設定中に現在の内容を破棄したい場合に利用します。このコードを読むことにより、以前設定保存した内容に戻ります。このコードは、各種設定ページの左下にも用意してあります。



VERSION (バージョン確認)

スキャナーのソフトウェアバージョンを表示します。パソコン側では、メモ帳等のキーボードデータを表示可能な状態にして読み込んで下さい。メンテナンス時には非常に重要です。



LIST (設定内容を表示)

設定されている各種の内容を表示します。パソコン側では、メモ帳等のキーボードデータを表示可能な状態にして読み込んで下さい。設定されている情報が、キー入力と同様に通知されます。通知された設定内容は、英字にて表示されます。お手数をおかけいたしますが、本書との照り合わせを願います。



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Hexdecimal Code Table (数值設定用コード)

START (設定開始)



Hexdecimal Code Table (数值設定用コード)

0



1



2



3



4



5



6



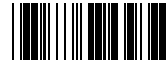
7



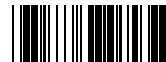
8



9



A



B



C



D



E



F



SET (セット)



ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)



Output Interface (出力インターフェイス)

START (設定開始)



Output Interface (出力インターフェイス)

Keyboard Wedge (キーボードインターフェイス)



RS-232C (RS-232Cインターフェイス)



Wand Emulation (ワンドエミュレーション)



OCIA (OCIA)



予備0



予備1



予備2



予備3



この設定はお客様で特に設定変更は必要ありません。

ABORT (設定中断終了)



END (設定保存終了)

